



編集 SEF 事務局
 連絡先 03-3669-0499
 URL <http://sef-jpn.org>

巻頭のことば 「春風や 鬨志いだきて 丘に立つ」 **理事長 佐立 弘臣**

上の句は大正2年、高浜虚子が44歳の時の新しい俳句を始めるぞと言う決意の句である。この句に出会ったのは半世紀前であろうか、なぜかこの季節になると、この句が頭に浮かぶ。「春風や」とあるので4月、新たな期のスタートの季節であろうが、個人なら「鬨志いだきて」は新年になるのではと考える。1月の寒風の中に一筋の暖かい春風を感じ、この句を味わうのもいいのではとも思う。

「鬨志」というと何かギラギラしたものを思い描くが、シニアにはゆっくりした、静かな「鬨志」でいい。「鬨志をいだきて」というのには気恥ずかしい「小さな挑戦」でいい。その挑戦が達成感を生み、満足感になり、それが気力の充実、体力維持につながっていく。

SEFは4月から14期が始まる。SEFの事業部会、研究会、サロンの場が会員皆様の「小さな挑戦」の場になることを祈念します。

3 月度 (第 141 回) 理事会報告 (3 月 25 日)

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 27 年度体制(案)→審議・承認 2. 「平成 27 年度事業部会別運営方針」(改訂案)→審議・承認 3. 平成 27 年度(第 14 期) 予算(案)作成の件→審議・承認 4. 佐野会員「業務委託変更契約書」締結の件→審議・承認 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 正会員入会申込の件(松浦 直樹氏)→審議・承認 6. 康宏商事業務支援契約延長の件→審議・承認 7. 2 月度意見交換会報告の件→報告了承 8. 準会員退会の件(田部井会員, 釜谷会員)→報告了承 9. 平成 27 年 2 月度会計報告→報告了承 |
|--|--|

事業報告 「業務支援事業部1グループ 成行」 **担当理事 眞鍋 康雄**

新年度になりました。私は1グループの一角を占める「機器検査事業」を担当させて貰っていますが、昨年度の当事業の売り上げは対予算1.5倍、ここ数年の実績に対しても2倍規模と好成績を収める事が出来ました。これも従事会員各位が客先である検査会社を通じて、海外のエンジニアリング会社が満足する高い品質の検査実務を提供して来た事が成果につながっていると考えています。又、この1年でSEF新入会員2名が新たに検査業務を開始して体制の充実を図る事が出来た事も特筆できます。今年度の当事業の見通しは世界的な油安の影響を受けて、日本から輸出されるエネルギー関連機器の動向が懸念材料となりそうです。そう言う環境下ではありますが、新年度も従事会員各位が「社会への貢献」、「第一線感覚維持」と言う二つの遣り甲斐を感じながら着実な事業活動をお願いしたいと思っています。

SEF サロン 第 87 回 報告・第 88 回案内 **担当理事 白崎 善宏**

《 第 87 回報告 》
講師:大澤文護氏 千葉科学大学教授 元毎日新聞ソウル支局長
演題:「伝統文化体験で知った日韓相互理解の秘訣」
 韓国で約7年を過ごされ大澤氏は、記者の傍ら韓国伝統舞踊を習い、韓国最大の劇場で開催された公演に出演した経験から日韓の違いとその違いを埋めるために日韓交流と真の相互理解のために必要なものについて話されました。「『日本と韓国の歴史や文化はまったく異なる。そんな国を理解するには、生半可な勉強では間に合わない』。日本にも韓国にも互いについて『知ったかぶり』で語る人があまりにも多いのが現状です。関係改善のために、日本の方々に『もっと韓国を知ってほしい』、そして韓国の方々に『もっと日本のことを勉強し、理解して』と語りかけています。それを続けていけば、日韓理解は深まり、今のような無意味な対立は少なくなっていくと信じます」と熱く 語られました。会場からも関連質問が多く寄せられ盛会でした。

3 月度会員動向

<p>会員入退会 準会員から正会員へ編入 1 名 (松浦直樹氏) 準会員 2 名退会 (田部井勝男氏、釜谷武志氏)</p>	<p>3 月 1 日現在の会員数 正会員・29 名 準会員・30 名、賛助会員・3 社</p>
--	---